

第1章 本市の学校給食調理施設の現状

本市では、旧一宮地区にて共同調理場方式、旧尾西・木曾川地区にて単独調理場方式により給食を提供しています。以下、共同調理場2施設については(1)、市内の全小中学校61校の調理場又はコンテナ室については(2)で、現状を整理しました。

(1) 共同調理場

現在、旧一宮地区47校については、南部学校給食共同調理場と北部学校給食共同調理場で調理した給食を搬送しています。両共同調理場とも築40年を超え老朽化が進んでいることに加え、衛生面(室温湿度等)が現在の学校給食衛生管理基準に適合していません。各共同調理場の食数が多く、現場に制約がかかっています。

また、食缶が一般的なものより容量が大きく、内容量によっては保温機能が低いことも、課題となっています。

図表 1-1 共同調理場の概要(平成28年4月現在)

分類	施設名称	南部学校給食共同調理場	北部学校給食共同調理場	
施設概要	所在地	北小淵字寺山南 100	浅井町江森字森前 8	
	調理能力	14,000 食	15,000 食	
	開設年	昭和 48 年 4 月	昭和 51 年 4 月	
	敷地面積	5,773 m ²	5,680 m ²	
	建物面積	2,335 m ²	2,554 m ²	
	調理場面積	2,096 m ²	2,138 m ²	
	構造	RC 造 2 階	RC 造 2 階	
	厨房方式	ウェット方式(ドライ運用)	ウェット方式(ドライ運用)	
運営概要	提供食数	13,373 食	13,505 食	
	運営方式	直営	民間委託	
	人員	施設長 1 人 栄養教諭・学校栄養職員 3 人 調理員 63 人、事務職員等 16 人	施設長 1 人 栄養教諭・学校栄養職員 3 人 調理員 58 人、事務職員等 11 人	
	対象校	小学校	18 校 大志、向山、西成、赤見、浅野、丹陽、丹陽西、丹陽南、大和東、大和西、萩原、中島、千秋、千秋南、富士、西成東、大和南、千秋東	14 校 宮西、貴船、神山、葉栗、瀬部、浅井南、浅井北、北方、今伊勢、奥、末広、今伊勢西、葉栗北、浅井中
		中学校	8 校 南部、西成、丹陽、大和、萩原、千秋、西成東部、大和南	7 校 北部、中部、葉栗、浅井、北方、今伊勢、奥

※ 「人員」の「事務職員等」は、ボイラー技師、運転手を含む。

(2) 各校の調理場又はコンテナ室

市内の全小中学校 61 校のうち、旧尾西・木曽川地区の小学校 10 校と中学校 4 校は、各校の単独調理場で自校分の給食を調理しています。厨房方式は全てウェット方式(ドライ運用)で、14 校で合計 8,639 食を提供しています。運営方式は、小信中島小のみ直営で、他の 13 校は民間に調理を委託しています。各校の単独調理場とも、老朽化が進んでいることに加え、衛生面(室温湿度等)が現在の学校給食衛生管理基準に適合していません。

図表 1-2 単独調理場の概要(平成 28 年 4 月現在)

小中の種別	学校名	給食開始年月	単独調理場床面積	提供食数	運営方式
小学校	起小	昭和 23 年 4 月	220 m ²	548 食	民間委託
	三条小	昭和 22 年 5 月	253 m ²	866 食	民間委託
	小信中島小	昭和 27 年 2 月	240 m ²	717 食	直営
	朝日東小	昭和 33 年 5 月	193 m ²	356 食	民間委託
	朝日西小	昭和 28 年 12 月	173 m ²	201 食	民間委託
	開明小	昭和 30 年 4 月	218 m ²	462 食	民間委託
	大徳小	昭和 51 年 4 月	214 m ²	480 食	民間委託
	黒田小	昭和 28 年 9 月	164 m ²	610 食	民間委託
	木曽川西小	昭和 28 年 9 月	230 m ²	865 食	民間委託
	木曽川東小	昭和 51 年 4 月	190 m ²	631 食	民間委託
中学校	尾西第一中	昭和 53 年 1 月	288 m ²	892 食	民間委託
	尾西第二中	昭和 53 年 1 月	192 m ²	388 食	民間委託
	尾西第三中	昭和 53 年 2 月	181 m ²	577 食	民間委託
	木曽川中	昭和 39 年 9 月	208 m ²	1,046 食	民間委託
合計				8,639 食	

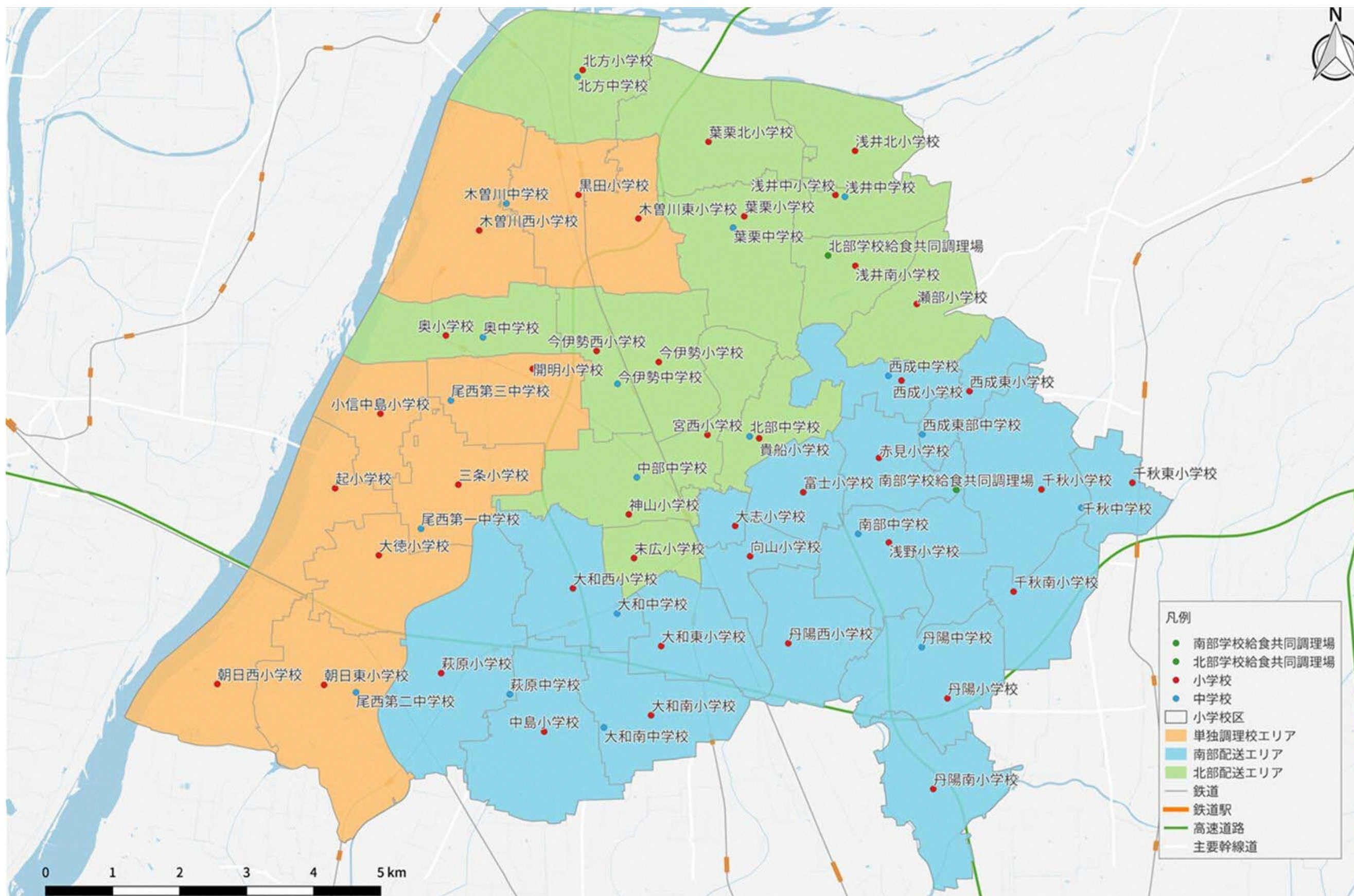
旧一宮地区の小中学校 47 校は、(1)で整理した通り、南部学校給食共同調理場又は北部学校給食共同調理場で調理された給食を各校のコンテナ室で受け取り、配膳しています。各校の分布は図表 1-3 に示すとおりです。

図表 1-4 では、市内全 61 校について、コンテナ室(共同調理場方式)として整備する場合と調理場(単独調理場方式)として整備する場合に必要な整備内容を整理しました。

現在共同調理場方式の学校を単独調理場方式に変更する場合には調理場を整備しなければなりません。平成 27 年度一宮市学校給食審議会において、調理場の必要面積を学校敷地内(駐車場と運動場以外)で確保できる学校を確認したところ、向山小、丹陽小、千秋小、末広小、大和南中の 5 校しかありません。さらに、この 5 校も、図表 1-5 に示すとおり、調理場を整備するには様々な問題があることが分かりました。

なお、各校の単独調理場をコンテナ室(共同調理場方式)に改修する場合、必要面積が縮小するため、建築技術的には問題ありません。

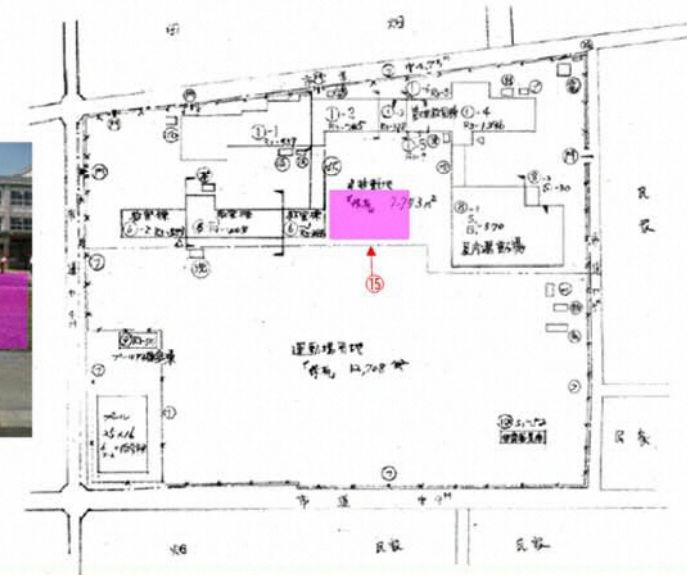
図表 1-3 市内の全小中学校の分布及び配送エリア（平成 28 年 4 月現在）



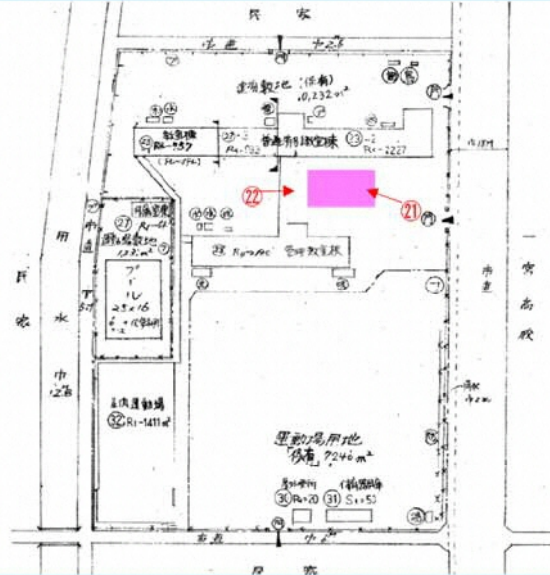
図表 1-5 5校への単独調理場建設検討結果

向山小	配送車が入り出すため、児童との動線を分ける必要があり、学校での人の動線が悪くなる。1階教室の日当たりが悪くなる。臭いや、高温多湿な調理場の排気が教室に流れ込みやすくなる。教室からの景観が損なわれる。校歌に出てくる噴水の移設又は撤去が必要。
丹陽小	北側1階教室の日当たりが悪くなる。臭いや、高温多湿な調理場の排気が教室に流れ込みやすくなる。東の市道より食材等の搬入ルートを更新に設ける必要がある。
千秋小	配送車が入り出すため、児童との動線を分ける必要があり、学校での人の動線が悪くなる。運動場に隣接するため砂埃などが進入しやすくなり衛生的ではない。臭いや、高温多湿な調理場の排気が教室に流れ込みやすくなる。教室からの景観が損なわれる。
末広小	配送車が入り出すため、児童との動線を分ける必要があり、学校での人の動線が悪くなる。1階教室の日当たりが悪くなる。臭いや、高温多湿な調理場の排気が教室に流れ込みやすくなる。
大和南中	教職員用の駐車場を他の場所に確保する必要がある。搬入車両の経路を確保し、正門とは別のルートとすることが安全上望ましいが、現在の校舎等の配置では困難。

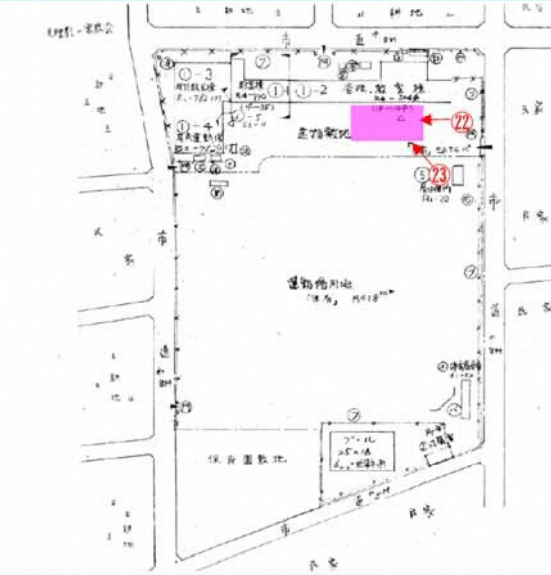
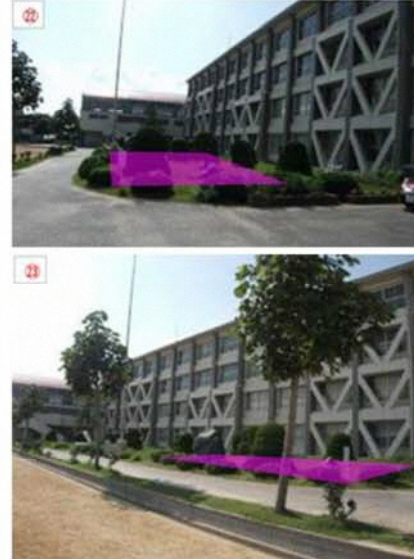
千秋小学校



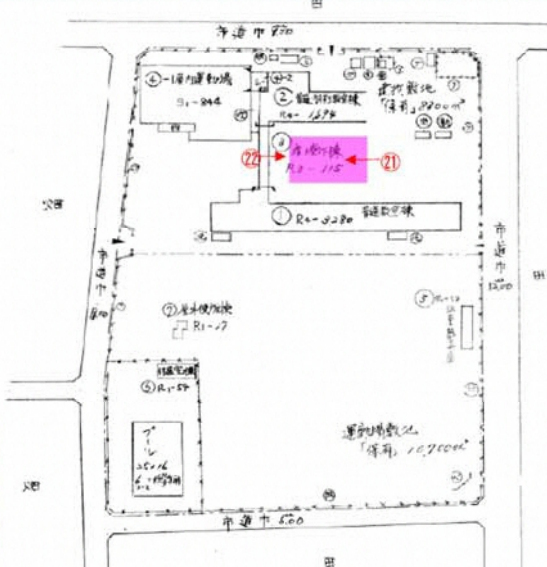
向山小学校



末広小学校



丹陽小学校



大和南中学校

